池上委員長が資料 44-4-1 (調査部会の構成員) を 4 分程で説明した。

池上委員長：調査部会構成員について、これは私の方からご報告さして頂きます。エー、前回の委員会で調査部会の部会長、それから部会長代理、河内山委員、それから井上委員を指名さして頂いたんですが、其の内、調査部会の其れ以外の特別委員についてですネエ、検討をして参りました。で、今般そのメンバにつきまして、あの、宇宙開発委員会令に基づきまして、委員長として指名を致しましたのでご報告致します。あの、お手元の 4-1 の資料で御座います。で、あの、今回ですネエ、あの、此れ迄の委員の方と何人かあの、交代して貰う様な事でやらして頂いております。と申しますのは、此れ迄の調査部会の委員はですネエ、あのー、H-ⅡA の 6 号機が打上げ失敗をした時に作られたもので御座いまして、2003 年にスタートして居る訳で御座います。で、あの、そう云う事も御座いまして、まあ、幸いな事に調査部会は其れ以降開かれなかったんですが、今回調査部会が開かれると云う様な事になりまして、で、エー、あのー、一部の方をご退任をお願い致しまして、で、若い方を含め、新たな方を指名したと云うのがあの、其の資料に書いてある通りで御座います。で、エー、此の中でですネエ、ISAS を含めまして、その、JAXA の先輩の方が 3 名含まれております。此れはあの、上杉さん、それから中島さん、それから中谷さんですが、彼らにつきましては夫々の専門分野をあの基本と致しまして委員をお願いしようと云う風に考えておりましてですネエ、ですから、従って、あの、内部に対して甘くすると云うことではなく、寧ろ厳しく、色々評価されるんではないかと云う事を期待して居ります。それからもう一つはですネエ、従来そう云う事は無かったんですが、メーカ出身の方が 2 名入って居られます。で、一人はですネエ、日本ロケット協会会長の折井さん、で、彼は昔 NEC で矢張りその、科学衛星の開発に色々携わって来られた方です。それからもう一人は東野さん。下から 4 番目。今、あの、室蘭工業大学の先生になって居られますけど、昔は IHI で矢張りそのー、ロケットシステム等々についてですネエ、其の分野でですネエ、其処でまあ、在籍して居られたと云う事で、で、あの、通常ですとメーカの方が入るとおかしいんじゃないかって云う事が御座いますが、此れはあの、私の責任で、的確な人と云う事であの、選定さして頂きましてですネエ、まあ、おかしなことが若しあれば、あのー、厳にそう云う事が無い様にですネエ、チェックして行きたいと云う風に思って居ります。で、後の方はですネエ、夫々あの、材料関係とかですネエ、或いは機構部品関係、或いは信頼性のプロと云う様な形になっております。あの、因みにあの、6 号機の失敗の時の委員だった方も 4 名残って居られます。で、そう云う事で、斯う云う様な新しいメンバで以て、あのー、調査そのものはですね、非常に厳格に、と云うか、厳密にその、プロの視点からやって頂きたいと云う風に考えて居りますんで、具体的には河内山部会長、宜しくお願い致しま

す。…℃、それでは次に…此れは轟補佐の方からお願いします。

其の後、文科省の轟補佐が資料 44-4-2 (現状報告) を 3 分程で説明した。其の後 1 分半ほどの質疑応答が有り、前回の議事録が確認されて議事を終了した。

森尾：あのー。「あかつき」の加速度が低下って云う表現はアレですか、加速度が徐々に低下って云うのはスピードが段々落ちて来た？

轟補佐：はい。

森尾：ア、

誰か：ブレーキの掛り方。

森尾：ブレーキが掛らなくなったんですネ。

轟補佐：はい。

森尾：急速に低下って云うのは、あの、減速しなくなったと云う意味？

誰か：そうですネ。

池上委員長：スイマセン、あの、調査部会の件なんですけれど、此れ、あの、金曜日の 14 時 30 分から開催するって云う事、私其れ言うの忘れてしまったんですが、あさって開催致しますんで、宜しくお願い致します。…エエトネエ、14 時 30 分。二時半。

池上委員長：其れと此れ、スペース X 社の此れは、或る意味じゃあ大事件ですネ。良く成功したと。ですからあのー、日本としてはっておかしいんですが、矢張りあの HTV が、或る意味では競争相手に、HTV の競争相手になるかも知れないんで、HTV-R を含めましてですネエ、早急に一寸議論してかなきゃいけない[1]って云う風に思います。…他に御座いますでしょうか。…どうも有難う御座いました。前回の議事要旨が…（以下省略）

---

[1] ISS にサンプルリターンの機能が無い儘で、此れから運用し続けなければならないと云う状態は避けたい。然し、其れをアメリカの民間企業と日本政府が競争すると云う考えは持たないで頂きたい。そもそも HTV の計画は JEM をシャトルで打上げて貰った「コンペンセーション」として計画が浮上したのである。日本の貢献分野を拡大すると云う事は、ISS のリソース（宇宙飛行士の作業時間を含む）の利用権が増大する事と等価になるので、宇宙実験のニーズと良く照らし合わせた検討をして頂きたい。増えた分を皆東南アジアに無償提供すると云う様な愚は避けて頂きたい。ISS のメンバ国である事は、国連の常任理事国になる事と同価値、又は其れより重大な位置付けかも知れない。ISS 参加各国の製作、戦略を良く研究し、夫々の目指す姿と良く整合する計画を進めて頂きたい。計画の進捗を妨げる消極性も歓迎されないが、一人突出するのも歓迎されない。民間企業が国の拘束を少々外れた様な国際化を企て、国家として手を出せない処があっても致し方ないだろうが、宇宙活動は国家予算そのもので行なっているのだから、日本の国家前略の中で動いて頂きたい。